

過去に使用した教材

第1回 (2019年3月)

Déshérence industrielle (忘れ去られた製造業)

L'hégémonie du dollar de plus en plus contestée

(ドル覇権への異議申し立て)

Après Hulot, Ruy va devoir composer avec la filière nucléaire

(ユロ環境大臣の辞任と原子力産業)

Alstom-Siemens, ou l'Europe frileuse

(アルストム・シーメンス合併の挫折)

第2回 (2020年3月)

Etat pompier, Etat stratège (救済する国家、戦略を立案する国家)

En 2019, l'emploi a connu une belle embellie (雇用の大きな伸び)

La finance peut-elle sauver le monde ? (金融は世界を救えるか)

Face à la Chine et aux Etats-Unis, l'industrie européenne vacille

(EUの製造業は米中二大国に対抗できるか)

第3回 (2020年8～9月)

Alstom prêt à acheter Bombardier Transport

(アルストムがボンバルディアエの鉄道事業を買収か)

Entre mantra politique et mirage économique, le difficile retour des usines en France

(製造業の国内回帰の難しさ)

Emmanuel Macron face au Covid-19 : la revanche des passions tristes

(コロナ危機に揺さぶられるマクロン政権)

Le monde dans l'ère de l'argent gratuit

(お金が只で借りられる世界)

第4回 (2020年12月～2021年1月)

Veolia-Suez : histoires d'eaux (ヴェオリアがスエズに買収攻勢)

Le dollar, révélateur d'une Amérique affaiblie

(ドルの価値が弱体化した米国を露呈)

«*Le nucléaire est devenu un péril parmi tant d'autres*» : la lutte contre

l'atome ne fait plus recette (反原発運動が勢いを失った)

Plans sociaux : l'exécutif sous pression

(雇用問題に追い詰められる政府)

第5回 (2021年2～3月)

Pourquoi PSA et Fiat Chrysler fusionnent

(PSA とフィアットは何故合併するのか)

5G : une empreinte carbone pas neutre, alerte le Haut Conseil

pour le climat (5Gの普及でカーボンフットプリントが悪化)

Guerre commerciale : l'Europe s'arme enfin

(貿易戦争におけるEUの復権)

Malgré la reprise, l'inflation devrait rester modérée

(景気が回復してもインフレは低いレベルに留まる)

第6回 (2021年5～6月)

Le veto de Le Maire au rachat de Carrefour

(ル・メール財務大臣、ケベック企業によるカルフル買収を拒否)

Les entreprises traquent le CO2

(企業がCO2排出量を追跡)

Quarante ans d'un lent déclin européen

(40年に亘るEUの緩慢な衰退)

Puces électroniques : la démondialisation impossible

(ICチップ生産の脱グローバル化は不可能)

第7回(2021年7~9月)

Le cinéma selon Amazon

(アマゾンの考える映画)

Bourse, la peur du krach

(株式市場における暴落の恐怖)

Des éoliennes pour décarboner l'économie française

(フランス経済の脱炭素化に必要な風力タービン)

Bercy se convertit à la dépense dans la douleur

(フランス財務省、歳出増への転換の苦しみ)

第8回(2022年2~3月)

Pénuries, c'est parti pour durer

(モノ不足は今後長期間続く)

Qui paiera pour sauver la planète ?

(地球を救うために誰がカネを出すのか)

La croissance, nouveau clivage politique

(「経済成長」という概念が新たな政治的争点に)

L'Europe sort de l'ère des taux négatifs

(EUはマイナス金利の時代から抜け出しつつある)

第9回(2022年7~9月)

Consommer... jusqu'à l'écoeurement

(やみくもな消費の果てに…)

Déficit commercial : la France s'enfonce

(フランスの貿易赤字が更に拡大)

Vu de l'étranger, le paradoxe du déclin français

(外国メディアの見る「フランス衰退論」のパラドックス)

La fin de l'ère de l'argent gratuit

(お金が只で借りられる時代の終り)

第 10 回(2023 年 2～3 月)

EDF ou l'histoire d'une débâcle française

(EDF、フランス原子力産業の敗退の歴史)

Orpea ou le bal des hypocrites

(有料要介護老人ホームOrpea、偽善者達の宴の終り)

Avis de tempête sur les économies émergentes

(米国の利上げにより新興国金融市場に嵐の前兆)

Mourir d'un monde abîmé

(新型コロナで死ぬ、それは環境汚染等により傷んだ世界が原因でもある)

第 11 回(2023 年 7～9 月)

Les coûts flambent, l'industrie tremble

(エネルギー及び原材料価格の高騰に震える製造業)

Le plan Biden réjouit l'Amérique des affaires

(米国のインフレ抑制法 [IRA : Inflation Reduction Act] に沸く米企業)

Les profits comblent les actionnaires et gonflent l'inflation

(大企業の好業績を背景に株主還元が大幅に進むが、インフレも助長)

Inflation : la revanche des industriels

(部品不足やサプライチェーンの混乱によるインフレ。メーカーは便乗値上げをしているのではないか。)

第12回(2024年2~3月)

Réindustrialisation : le défi de l'acceptabilité sociale

フランス国内における製造業の再興、今やこれは国の最重要課題とされている。新型コロナ危機をきっかけに、医薬品、半導体その他の重要物資の供給が外国、特に中国などに依存している事実が明らかになったからだ。

しかしいざ特定の企業が工場立地のプロジェクトを立ち上げると、地元住民が歓迎しない例も出てきた。創出される雇用の規模が、環境その他の面でのデメリットに見合うものか、冷静に検討されるようになったからだ。

Bruno Le Maire et Carlos Tavares, deux visions des classes moyennes

ルメール経済財務相と自動車メーカーStellantis (PSA + Fiat-Chrysler) のカルロス・タヴァレスCEO、この二人はフランスの中間層を全く異なる形で捉えている。

ルメール氏は、製造業による雇用がフランスの中間層の維持拡大に貢献すると考え、公的資金も出すから電気自動車 e-208 を国内で製造して欲しいと要求。

タヴァレス氏は、国内ではフランスの中間層に買える価格の電気自動車は作れないと主張。

L'anti-obésité, un vaste marché à conquérir

糖尿病にも抗肥満薬としても使える効果的な薬が開発されて、大騒ぎ。

と言うのも、何も対策を取らなければ、2035年までに世界人口の半分以上が肥満状態に陥ると想定されており、抗肥満薬は巨大な市場になることが確実だからだ。

肥満に悩む人々がこの薬を飲み始めれば、食欲が抑えられて消費も減ると予想され、一部の食品メーカーの株価に影響が出る程だ。

Coup de froid sur les start-up

スタートアップ企業の現状報告。

一時期、スタートアップ企業はブームと言われる程もはやされて、幾らでも資金調達できた。その後の成長を見込んで、採算が取れていないのにベンチャー・キャピタル等が運転資金まで提供したからだ。

2022年夏頃からそれが難しくなってきた、人員解雇に追い込まれる企業も出てきた。

第13回(2024年8~9月)

La voiture électrique voit son avenir s'assombrir

EVの売れ行きに陰りが出てきて、自動車メーカー各社が対応に苦慮している。

Sevrée du gaz russe, l'Europe dans le piège de l'énergie chère

EU各国経済が、中々ロシア産天然ガスへの依存から抜け出せない。

Rouvrir des mines en Europe, un pari risqué

リチウム等、様々な金属資源がエネルギー移行のために必要なのに、中国等ごく一部の国に依存している。そこで欧州でも、鉱山開発を再開しようという動きがある。

対して、環境上色々な問題が生ずるので、慎重に事を運ぶべきという批判が出ている。

OPA sur la médecine de ville

開業医のクリニックが投資ファンドに乗っ取られようとしている。

例えば、X線検査業務が大きな利潤を生むのを見て、投資ファンド主導で専門医のグループを作り、儲け優先の運営をしようとしているらしい。financiarisation (金融化) の具体例だ。